

2006 年 12 月 28 日

難病医療費公費助成見直し問題に関する
厚生労働省の回答（12/21 意見交換）についての見解

IBD ネットワーク世話人 藤原 勝

〒607-8071 京都市山科区音羽千本町 1-6

潰瘍性大腸炎とパーキンソン病の難病医療費公費助成見直しについて、厚生労働省疾病対策課は 12 月 21 日の IBD ネットワークを含む患者団体との意見交換において

1. 2007 年度は潰瘍性大腸炎・パーキンソン病を含め現行どおり実施（見直しは行わない）。
2. 2008 年度については白紙の状態。
3. 今年度内に新規疾患の追加を検討する。

と回答した。これについて IBD ネットワークは以下の見解を公表する。

私たちは、この問題が発表された 8 月 9 日以後、一貫して難病医療費公費助成制度の継続と新規疾患拡充を訴え活動してきた。厚生労働省の方針を撤回させたことは、私たちの運動の大きな成果であり、一緒に活動した仲間たち及び全国の難病と闘っておられる患者の方々そして私たちの訴えに耳を傾けご理解とご協力をいただいた多くの方々と共に喜びを分かち合いたい。

一方、現行どおりに制度を継続するとしつつも、2007 年度予算案は見直しを前提としており、問題が先送りした状態におかれていることも見過ごせない。したがって、これで問題が全面的に解決したとはいえない。

私たちは、今後も国の動きを注視するとともに、さらなる難病対策の発展を望んでいる。しかし、もし難病患者自身が、体調や生活を工夫しながら、何度も地方と東京を往復し、制度継続を訴え続けなければ、維持が難しい状況が続くとすれば、それは私たちのみならずこの国で暮らす多くの人々にとっても、わが国の医療行政または国家としてのあり方に暗澹たるものを感じずにいられないのではないだろうか。二度とこういったことはあってはならないと思う。

12 月 21 日の意見交換において厚労省担当課長より、「皆さん（患者団体）から「一緒に考えて行きたい」との言葉に、心強く感じた。「患者会の皆さんとは、対立関係ではなく、協力関係を築いて行きたい。今後の問題でも皆さんからのご提案があれば検討して行きたいと考えています。」という発言をいただいたが、私たちもこの言葉を信頼の架け橋と信じ前向きに評価したい。

本来、厚生労働省は国民の健康と生活を守ることが職務であり、その原点に立ち返り、所要予算の確保に努めるとともに、当事者である患者団体との協力関係を基盤に、難病問題の解決に向かい前進できることを期待している。

以上